



HOSHIBA

医療法人社団星秀会

ほしは歯科医院ニュースレター

Vol.52

なんだか、3月になってもなかなか暖かくなりませんね。暖冬と言われていた、昨年末には、考えられないような季節の推移です。でも、部屋の中から感じる陽射しは明らかに『春』の気配を感じます。

先日、外食先でふきのとうのてんぷらを出してもらい『春』を感じました。食物や植物は確実に次の季節へと移っているのですね。

日中、診療室にいる私は、皆さんに比べ戸外の温度の変化を感じる事が少ないのです。でも、診療にいらっしゃる皆さんの服装や、体温などで、外気を感じることができます。今年はなかなか、『春』の装いにならないなあと感じます。

『ほしは歯科医院』への道のりが早く春の暖かい陽射しになるといいですね。



本当の歯の色はどんな色？



いつ頃からでしょうか。新たに知り合いになった人に私の職業が「歯科医師」だと分かった途端に「今度、歯を治療してください」ではなく、「今度、歯をきれいにしてください」と言われることが多くなった気がします。

昔から『明眸皓齒（めいぼうこうし）』という言葉があるように、澄んだ瞳と白い歯は、美人の条件とされてきました。確かに、白い歯は、健康的で若々しく清潔なイメージをもたらします。

しかし、通常の健全な歯の色は、真白ではありません。また、漂白しても、白いタイルのような色にはなりません。やや黄色味を帯びたアイボリー色が、歯の本当の色です。

人の歯の色は、加齢にともない変化します。顔にしわができたり、白髪になったりするように、歯の中の変容、すり減りなどによって、色や形が変化するのです。つまり歯も歳をとるのです。

なかでも目立つのは歯の色が黄色くなってく

ることです。これは内部組織が変化してくることによるもので、歳をとるにつれて石灰化が進み、組織が密になって歯が硬く丈夫になることによるのです。歯の色は丈夫になるにつれて白から黄色、そして鉛色へと濃くなっていきます。

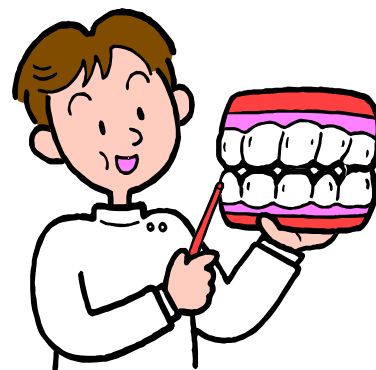
歯の色の変化には、加齢の他に先天的なものや、食生活や嗜好品が原因の場合もあります。

歯の色についても、何か気になることがあったら聞いてください。先日も「こどもの歯に茶色の筋が目立つのですが、むし歯ですか？」とお母さんは心配していましたが、原因は茶渋でした。説明を聞いておかあさんは安心されていました。また、自分の歯の黄色さを取り除こうと一生懸命歯磨きして、エナメル質が極端に薄くなってしまった患者さんがいらっしゃいました。正しいブラッシングの指導を受けていればそんな負担を歯にかけずにすんだのに。

むし歯の治療でクラウン（さし歯）を作る場合「先生、なるべく白くして」などと言われることがあります。周囲の歯の色や、加齢による歯の色の变化も考慮したものでなければかえって、歯の色の印象は悪くなってしまいます。審美的な面を重要視するのなら、年代の節目ごとに作り変える必要ができてきます。その場合にも大切なのは丈夫な土台です。日ごろのケアをしっかりとっておかなければなりません。

歯科技工の技術は近年大きく進歩しています。現在特に注目されているのがすべてをセラミックで作ろうという技術（オールセラミッククラウン）です。

金属でクラウンやブリッジを作ると、大きく口を開けたり笑った時に見えてしまうのがいやだという審美的な面での不満は解消できます。また、金属を使わないことで、アレルギーなどの身体への影響も少なく



なります。ただ、いずれにせよ、加齢による歯の色の变化は避けられません。

よりよい質で、より負担の少ない材料、技術はこれかれも進歩していきませんが、「加齢による歯の色の变化」は誰にでもかならず起こります。

いくらでも真白な歯をつくることはできるのですが、歯の自然な変色とかけ離れた白さは、やはり不自然さを感じさせてしまうかもしれません。是非、口元の変化を視野に入れた治療やケアを一緒にすすめていきましょう。

ご意見はこちら

ほしば歯科医院へのご意見、ご感想、その他何でも受け付けております。どのような方法でも結構ですからお気軽におっしゃってください。

電話 03-3686-4657

ファクス 03-3877-7771 (院長直通)

E-mail info@hoshiba.net

http://www.hoshiba.net



お知らせ



アンチエイジング



最近、テレビや雑誌（特に女性誌）で『アンチエイジング』という言葉を見聞きします。医療の分野でも『アンチエイジング医学』の分野が確立されつつあります。

寿命管理：長生きのための予防に重点を置き、ガン、虚血性心疾患、脳血管障害、肺炎など重篤な疾患をふせぐ。

体調管理：体力、気力の充実や頭脳にも衰えがこないように、生活習慣を含めた体調管理。

容姿管理：いつまでも若々しく美しくを目標にする

上記のように、いつまでも美しく健康で若々しく寿命を延ばすのが『アンチエイジング医学』です。

今のところマスコミなどで取り上げられているのは、容姿管理が主ですが、寿命管理や体調管理が、各個人の加齢や体力などに合わせてなされていなければ、本当のアンチエイジングではないのです。

私が往診しているある寝たきりのおばあさんは、入れ歯の調子がよくなったことで、食事も摂れるようになり、表情が明るくなり、口紅をつけて私を迎えてくれました。口腔内の清潔を保つことで、肺炎の予防ができ、食欲の回復で体力の回復や、気力の回復による表情の変化が現れ、口紅をつけるという、女性としての美の意識もとりもどしたのですから、これは『アンチエイジング医学』だと思えます。



現在、江戸川区歯科医師会で要職を務めさせていただいております。これも地域のため、皆様のためと信じ頑張っていきたいと思っています。ただ、会議が毎日のように入っており、診療時間を短縮する日が増えております。予約がなく、閉院時間近くにご来院される方は、ぜひ一度ご連絡ください。又、ご迷惑をおかけいたしますがしばらくの間、木曜日は休診とさせていただきます。

編集後記

今回は、歯の変色やアンチエイジングなど加齢について、あれこれと考えました。どうしても避けることのできない加齢による変化を、いかに上手く受け止めながら、それを言い訳にあきらめたり、甘えたりせず、精神的にも肉体的にも『若い』のではなく、『若々しく』歳を重ねていくことが、私の理想です。

ほしば歯科医院ニュースレター 第52号
発行日 2005年3月8日発行

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西 1-13-7
tel. 03-3686-4657 fax. 03-3877-7771
e-mail. info@hoshiba.net
http://www.hoshiba.net
発行責任者 干場貴司